



パテック フィリップ ジュネーブ

2020年6月

パテック フィリップはジュネーブに新工場が完成したことを発表し、これを祝うため限定製作の記念タイムピースを発表する

2020年の初頭、マニュファクチュール パテック フィリップは2015年に開始された建設工事を完了し、ジュネーブ市郊外プラン・レ・ワットの新工場における生産活動を開始した。新工場のきわめて近代的なアーキテクチャーは、マニュファクチュールのジュネーブにおける事業活動をすべてひとつの屋根の下に統合することを可能にした。これは、生産活動の複雑化が進む中で大きな利点である。さらに新工場は、希少なハンドクラフトの専門家と当社スタッフの基本的かつ高度なトレーニングのために必要十分なスペースを提供する。印象的な規模（10フロア、全長約200メートル）の新工場は、1996年建設の本社工房を拡張し、今後20～30年にわたるマニュファクチュールの成長を見込んでいる。新工場は、パテック フィリップのジュネーブのルーツと、伝統と革新を完璧に融合させる時計製作芸術の未来に対する確固たる自信をいま一度表明するものである。新工場の完成を祝するため、記念タイムピースが発表される。ステンレススチール仕様のカラトラバ6007モデルは、エクスクルージブなデザイン・コンセプトで際立っており、1,000個の限定製作となる。

1996年、当時のフィリップ・スターン社長の指導の下、パテック フィリップは先駆的な偉業を達成した。プラン・レ・ワットにおける空前の規模の新しい本社工房の建設であった。当社は、ジュネーブ郊外のプラン・レ・ワットに工房を建設した最初のブランドであり、その後続々と時計メーカーが移転してきたため、この地は《Plan-les-Watches》と呼ばれるに至った。当時の目標は、それまで市内の10個所以上に分散していた個々の活動をひとつの屋根の下に統合し、長期的に会社の独立性を確保することであった。新しい建物は、当初は十分な大きさであったが、やがてマニュファクチュールの急速な成長に対応するには小さすぎることが明らかになった。このため、2003年、外装関係（ケース、ブレスレット製造、ジュム・セッティング）を近隣のペルリーに移転した。2009年には、プラン・レ・ワットを拡大するため隣接する土地が買収され、既存のオフィス・ビルが工房に転換され、その後、すべてのムーブメント構成部品がここで製造されることになった。

増加の一途をたどる生産活動に必要なスペース

新工場建設プロジェクトを発足させるに当たり、パテック フィリップ社長ティエリー・スターン（2009年以來現職）は、2つの目標を追求した。ペルリーの製造工房をプラン・レ・ワットに移転することと、成長を続ける製造とトレーニング活動に必要なスペースの確保であった。問題は時計の生産量を現在の年間約62,000個から著しく増加させることではなかった。年間生産量は、パテック フィリップ・シールのきわめて厳しい品質規準により、すでに自然な形で制限されていた。代わりに、ジュネーブの最後の独立した家族所有のマニュファクチュール、パテック フィリップは、現在と未来の増大するチャレンジに対応するために、効率的で合理的な生産リソースを確保したいと考えていたのである。

過去25年の間に、パテック フィリップの現行コレクションは速いペースで進化してきた。今日では、コンプリケテッド・ウォッチが全モデルのほぼ半数を占めている。《有用なコンプリケーション》(特許取得済みの年



《報道資料》 ページ 2

次カレンダー、ウィークリー・カレンダー、トラベルタイム、ワールドタイム)は急速な成長を遂げ、特殊なメカニズムへの需要は明らかに増加してきた。またパテック フィリップの顧客中心の開発哲学により、時計の使用を容易にし、操作の安全性を高め、とりわけグランド・コンプリケーションの信頼性を高めるのに必要なメカニズムの数は飛躍的に増加した。その結果、時計1個当たりの平均部品数が増加している。パテック フィリップの戦略である広範な現行コレクション(シンプル・ウォッチ、有用なコンプリケーション、グランド・コンプリケーション、カジュアル・エレガンス、婦人用タイムピース、ジュエリーウォッチ)、160を超えるモデル数(各々の製作個数は数十から数百個)、さらに自社製の豊富な種類のキャリバーが搭載されることも、製造スペースの必要性を高めている。きわめて高度な熟練を要する希少なハンドクラフト・タイムピースへの需要の高まりにより、状況はさらに深刻になっていた。

すべては2015年10月、内輪の起工式により始まった。5年後、マニュファクチャールのまったく新しい製造拠点^①が、以前当社の駐車場で占められていた区画に出現したのである。

大規模な建設プロジェクト

パテック フィリップの新工場は印象的な規模で際立っている。長さ189メートル、幅67メートル、地上高34メートル、10フロアからなり、そのうち4フロアが地下にある。モダンな建築デザインがプラン・レ・ワットの景観を際立たせている。大型の窓ガラス(豊富な日光は必須である)が、正面全体を横切るホワイト・コンクリートの通路、および所々に設けられたブロンズ色のニューヨーク・スタイルの非常階段と効果的なコントラストをなしている。与える印象は、明確なフォルムを持つ巨大なオーシャン・ライナーのそれである。そしてパテック フィリップ・タイムピースのように、全体の繊細さが、ノーチラス・ケースのわずかに丸みを帯びた八角形を連想させる通路のわずかなカーブや、リーフ型指針のフォルムに似た非常階段の手すりのシルエットなど、きわめて洗練されたディテールと完璧な融合を見せている。

パテック フィリップのノウハウ全体をひとつの屋根の下に統合

内部空間は4つの階段で区切られた5つのセグメントに分割されており、20基の乗用と貨物用エレベーターが設けられている。1階と2階は地板(メインプレート)、受け(ブリッジ)、歯車、特殊形状部品などのムーブメント構成部品の製造と手仕上げに特化しており、3階は外装部品(ケース、ブレスレット)の機械加工、手仕上げ、組立て、およびジュエル・セッティングを主体としている。現行コレクションの部品製造に加え、これらの工房は、パテック フィリップの主要な成功の要因であるカスタマーサービスが必要とするスペアパーツの在庫を製造する役割も担っている。アンティーク・タイムピースの修復(レストレーション)もここで行われる。

4階には、新素材・新技術分野の研究開発(パテック フィリップ・アドバンストリサーチ)、高級時計製作部門、プロトタイプ関連の新ユニットなど、生産に関わるさらなる部門が配置されている。5階には、パテック フィリップが積極的に推進している希少なハンドクラフト技術(手彫金、七宝、ギョシェ装飾、微細な木象嵌など)を継承し、さらに進化させていくためのスペースがある。同フロアには299名収容のオーディトリウム(講堂)のほか、時計師や国際セールス・ネットワークのスタッフが研修を行うトレーニング・ルームもある。



《報道資料》 ページ 3

建物の6階には、880席の最上階レストランと4つのVIPラウンジがあり、いずれも周囲の山々を背景とした雄大なパノラマを楽しむことができる。クローゼットは地下1階の広い《大通り》に沿って配置されており、スタッフは各階の自分の持ち場に行く前に、ここを自由に往来することができる。4フロアの地下には、すべての機械技術設備と、合計635台収容の駐車場がある。

明日のビジョン

パテック フィリップの新工場は、そのエンベロープ（構造物）と技術機器の両面から、ジュネーブ州の省エネルギー法に定める《高エネルギー効率（HPE）》規格に準拠している。したがって例えば発生した熱は暖房目的で再使用される。スイスにおける建物のエネルギー効率の最高レベルである Minergie-P 認定を申請中である。

総工費は6億スイスフランで、そのうち5億スイスフランが構造物、1億スイスフランがインテリアおよび先端的な技術リソースに当てられた。

移転は2019年7月に開始され、ムーブメント構成部品の製造工房がすでに移転を完了している。2009年以来、この製造工房は隣接するオフィス・ビルに収容されていたが、この建物は現在、取り壊しが可能となった。2020年2月、外装部品工房とジュエル・セッティング部門がペルリーを離れ、新工場に移転した。プラン・レ・ワットの本社工房が落成してから四半世紀近くの後、ジュネーブにおけるパテック フィリップのすべての事業活動が再びひとつの場所に統合されたのである。さらに、今後20～30年間のブランドの成長に十分対応できる、余裕あるスペースが確保された。これらの点は、家族経営のマニュファクチュールの成功を保証し、次世代のために独立を維持する上で理想的な前提条件といえるだろう。

PRESS



プラン・レ・ワットのパテック フィリップ新工場

所有者： パテック フィリップ ジュネーブ SA

設計：

建築設計 フリスク・マリニャック・ピドゥー設計事務所（ジュネーブ）

室内設計（計画・施工） フライ&ステファニ設計事務所（トネ）

ジュネーブ州《高エネルギー効率（HPE）》規格準拠の省エネルギー建物

スイスにおける建物のエネルギー効率レベル Minergie-P（Minergie より上位）認定を申請中

主要な日付：

プロジェクト発表 2014年1月
建設許可申請 2014年12月15日
建設工事開始 2015年7月
建設工事完了 2020年4月

統計データ：

全長（通路を含む） 189.40 m
全幅（通路を含む） 67.60 m
地上高（屋上設備を除く） 34 m
地下深さ 17 m
フロアの数 10フロア（地上6フロア、地下4フロア）

総床面積 約133,650 m²

建物容積 約542,000 m³（エアバスA380約7機分）

総容積 約606,300 m³

総工費 6億スイスフラン
建物 5億スイスフラン
インテリアと設備 1億スイスフラン

地下容積 260,000 m³（オリンピック・プール90個分）

支持柱 1,100本

型枠 113,000 m²（サッカー場15個分）

コンクリート 8,000 m³（各辺43mの立方体に相当）

補強鉄筋 14,000トン以上（エッフェル塔2個分）

コンクリート構造床 厚さ50cm

